

令和7年度 学院関係者評価委員会報告書

中通高等看護学院

令和7年度の自己点検・自己評価結果をもとに、学院関係者評価を実施しましたので報告いたします。

学院関係者評価委員（3名）

実習施設 実習指導者 1名
実習施設 副看護部長 1名
同窓会代表（卒業生） 1名

令和7年度 自己点検・自己評価に対する学院関係者評価委員のご意見、ご助言、感想等

	意見・感想等
I. 教育理念・教育目的	<ul style="list-style-type: none">・カリキュラム改正に伴い、学生観の定義の曖昧さは改善され教育活動の指針としてさらになってくるのではないかと感じた。・明和会の理念をもとに教育理念、目的が明確に学生便覧やシラバス、実習要綱にも示され、入学時オリエンテーションで説明し各教室にも掲示しており、いつでも目に入る点が良いと思います。・教育理念の「自ら学び続ける力」「考える力」「行動する力」「センシング力」を明記したことや、学生観の定義を再構築し実効性を高めたことは、今後変わりゆく社会で柔軟に対応できる力のある看護師の育成に、繋がると思いました。
II. 教育目標	<ul style="list-style-type: none">・新カリキュラムとなり教育目標に対しての見直しに関しては、平均点が高いため先生方の目標へ対しての取り組みは力を入れられていることが感じとれた。・教育理念、教育目的に一貫性があり、到達ゴールが可視化され、又明和会の看護師要件に繋がる教育目標となっており、卒業後のキャリア開発ラダーを見据え、目標設定を継続的に設定できる点がよいと思います。・教育理念・教育目的に繋がる一貫性のある教育目標になっていると思います。学年別に期待されるレベルを明示したことで、学生自身の目標も明確になり、学ぶ意欲の向上と達成感も得られると思いました。
III. 教育課程経営	<ul style="list-style-type: none">・予定通りには進まない場合があると思うが全ての学生に応じた学習が展開できるよう調整していくことは大切だと感じた。・教育課程の編成、科目、単元の構成は教育理念、教育目的、教育目標と整合性はあり特色もみられています。又、教員の専門性を考慮した配置をしているが、授業時間の確保や相互研鑽システムなどの課題も見えます。効果的な教育となるよう体制の整備も求められると思います。・地域と密接につながる施設の担い手として活躍できるように「その人らしい暮らし」を理解する基盤を学ぶことは、法人の理念に沿った教育になっていると思えます。実習受け入れ施設として、実習指導者講習会修了者の計画的な育成継続と、臨地実習指導を担当する「教える側」となる職員を支えていきたいと考えます。

<p>IV. 教授・学習・評価課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な教育・指導を行うため教員間の協力は非常に大切だと感じた。 ・学生にも評価基準がわかりやすく、評価方法も公平性が保たれていると思います。 ・各授業科目の目的・目標をシラバスに明示し、その内容が国家試験出題基準とも照らし合わせて検討されていることが分かりました。 <p>限られたマンパワーの中でも、担当時間数の格差を最小限に抑える努力をすることで、教員にとって働きやすい学院になることを期待します。</p>
<p>V. 経営・管理課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルテキストの活用や遠隔授業など、自分が学生の時とは違う環境であり、より良い学習ができるよう整えられていると感じた。 ・限られた環境ではあるが、ICT教育が整備され、効率的に学習できる環境となっていると思います。スクールカウンセリングやハラスメント、学校生活などの相談窓口を設けており学生生活の支援体制が整っていると思います。 ・働く仲間全員で経営について知ってこそ意思統一が図られるため、法人の中期計画を職員に周知するのは大切だと思います。ICTを活用した教育が一般的となり、それにむけた環境整備をする一方で、建物の老朽化による学習環境の課題を抱え、大変苦労されていることが分かりました。 <p>また、インスタグラム・HPでは在学する学生が生き生きと活動する様子が伺え、適切にアピールされていると思いました。</p>
<p>VI. 入学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者や入学者数が減少傾向であり考える部分も多いと思うが、選抜方法について検討しながら取り組んでいるのであれば点数を上げて良いのではないかと思った。 ・受験者、入学者が減少していく中で学院の基本方針を明確にしている点やSNSの運用や学校訪問を行い、学院の特色をアピールしている点は学生が選ぶ理由に繋がっていると思います。在校生と協力しながらSNS等活動を継続して行ってほしいです。 ・アドミッションポリシーを明確にし、入学者選抜を実施していると分かりました。 <p>入学者数増加に向けた取り組みが実を結ぶことを期待します。</p>
<p>VII. 卒業・就職・進学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なデータから卒業時の到達状況を総括されていることが、実習期間中の先生方の様子から感じた。卒業後の実践の様子や課題については把握しきれないかと思うが、現場スタッフの声を聞く機会があっても良いのかと思った。 ・卒業後のラダー評価により、学院の教育によってしっかりと教育理念に基づいた能力が身につけていることがわかりました。調査を継続し分析結果から今後の教育へ活用してほしいです。 ・関連施設間の情報交換で卒後の状況を把握し、今後の教育体制に活かそうとしており有益と感じました。学生にとって、昨日まで身近にいた先輩が新人看護師となって働く姿をみることは近い将来をイメージでき、新人看護師にとっては、自分を律する機会になっていると感じます。

<p>VIII. 地域社会/ 国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの学生が法人内の職場への就職を希望しているが、海外への学校や職場に就くことが実現するよう書類の準備や医療英語に関して学ぶ環境をつくっていることは初めて知った。 SNS を活用し学内の様子や情報を発信することは地域への発信手段としてはとても良いと感じた。 ・法人としてある友の会の活動やボランティア活動に参加することで地域のニーズを把握できると思います。国際看護や医療英語など国際化が進む情勢を踏まえて授業を設定していることは素晴らしいと思います。 ・1年早期から地域における看護を積み上げ式に学んでおり、実習を通してさらに学びが深まることを期待します。外国人労働者も多く、言葉の壁を少しでも取り払えるように会話の知識や文化を知るのも大切と感じます。
<p>IX. 研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の業務がある中で2年に1度研究発表をすることを目標として挙げ取り組んでいることは評価しても良いと感じた。 ・教員の業務が多岐にわたっており研究時間の確保は難しいと思われます。日々の業務の中で研究に取り組むことのできる体制づくりや研究にとらわれず学びを共有しあえる場があれば、自己研鑽にも繋がると考えます。 ・研究活動を助言・指導する体制が整えられていないことが分かりました。当院で協力できることがあれば協力していきたいと考えています。